

第5回生駒市総合計画審議会（全体会）

開催日時 平成30年9月11（火）13時30分～15時40分

開催場所 生駒市役所4階 403・404会議室

出席者

（委員）中川会長、久会長代理、森岡委員、福谷委員、中谷委員、楠下委員、
谷中委員、藤尾委員、中山委員、村上委員、吉田委員

（事務局）増田市長公室長、坂谷秘書企画課長、岡村秘書企画課課長補佐、
日高秘書企画課主幹、片山秘書企画課員、市川いこまの魅力創造課長、
南口財政経営課課長

欠席者 高取委員

議事内容

1 開会

2 案件

- （1）各部会からの報告
- （2）基本構想（案）について
- （3）基本計画（案）について

3 閉会

以下、発言要旨

1 開会

【事務局】 ただいまから「第5回生駒市総合計画審議会」を開催します。

【事務局】 （資料確認）

2 案件

（1）各部会からの報告

【事務局】 高取部会長に代わり第三部会の報告をする。福祉、教育、生涯学習全

てに共通する課題として、ボランティア等の地域活動者が高齢化しているが、担い手の後継者が育っていないことを担当課に問題提起した。また、主担当課に対して当該分野における主な課題とこの5年間で実現したいことについてヒアリングされ、そのことが原案作成シートに記載されていない場合は、記載する旨の意見をもらった。これまでの進行管理の審議を踏まえ、新たに設定する指標の達成が5年後のまちの実現に繋がらないと思われるもの、また5年後のまちを測るものさしとして適さないと思われるものについて指摘があった。小分野全体が体系立てて書かれていないものは、構成を見直すよう意見をもらった。特に生涯学習に関する分野で、小分野の割り振りについて担当課との間に齟齬があり、本来、「332歴史・文化」に入る文化振興の取組が「331生涯学習」に記載されているという指摘があったため、332の小分野名を「歴史・文化振興」に変更することで担当課の了承を得た。第5次後期基本計画では、自殺対策に関する取り組みは描かれていなかったが、第6次から新規で「131健康づくり」の分野の中で、自殺対策の取組を追加している。素案では、健康づくりの分野では5年後のまちが1つだったが、審議会では、更に、心の健康づくりとして新たに5年後のまちも設定する方がよいという指摘をもらい、担当課に問題提起した。

【久会長代理】 大きな話は第三部会の報告と重複する部分がある。すべての項目で将来像の方向性を明確にして方針として明記してほしいとお願いした。逆に、細かすぎる事業レベルの記載は1ランク上げて、方針になる部分をしっかり書いてほしいこと、各施策の方向性が全体のストーリーとしてつながる書きぶりしてほしいとお願いした。市民1人1人が環境意識を高めなければ実現できない環境部門のように、市民との協働がなければできないものは協働の施策の方向性を記載してほしいこと、行政だけがやるのではなく、市民の活動を支援したり、コーディネートやファシリテートする施策がもっとあってもよいということをお願いした。第二部会は、都市づくりや環境、にぎわいづくりなどを担当している。都市づくりでは、現在生駒駅の北側の再開発は一定の面的な整備が終わり、それなりの成果が出ている。今後は従来のような駅前にビルを建てる「拠

点」ではなく、新しい形の拠点整備のイメージも必要であるという話が出た。環境については、生駒市は一定のレベルまできており市民意識も高いため、今後は今の形を維持することが重要である。ただし、市民には環境意識が高い人とそうでない人の温度差があるため、今後は全市民を巻き込んでいくことが重要になるという議論になった。今まで使っていた「シティプロモーション」という表現は、PRや外に発信する意味合いが強いが、今回の総合計画では市民が生駒を愛し市民自らが育てていく「都市魅力の創造」を行なうという意図がある。しかし、それが書ききれないため、「シティプロモーション」を「魅力創造」にする意味を共有できる記載にしてほしいという意見が出た。生駒市に観光を位置づけるのは難しいが、工夫次第で様々なことが考えられるという意見があった。前期からの継続的な議論である農業振興については、厳しい中でも創意工夫ができるという議論があった。高山地区の整備の条件になるリニア中央新幹線は国の方向性が定まっていないため、どこまで書けるか悩ましい。時間をかけた議論が必要である。

【中川会長】 第一部会の報告を行なう。第一部会は防災、消防、生活安全、市民協働・地域コミュニティ、人権・多文化共生、男女共同参画、行政経営、情報化、財政、職員・行政組織など多岐に渡る分野である。現状、課題、5年後のまちのストーリーに基づいて具体的な事業が出てくるのが本来の姿だが、ストーリーがきちんと描けていないものがいくつかあった。現状と課題認識が間違っているのか、事業の導き方が間違っているのかは重大な問題のため、流れを踏まえて精査してもらおうようお願いした。「今までもやっている」、「国から言われたからやっている」などの従来のやり方ではストーリーは書けない。現状と課題を認識したうえで仕事をすることが必要であることを全編に渡って問いかけた。また、カテゴリーが時代に合わなくなっているという話が出た。「情報化」は、情報社会に対応する行政改革に思えるが、今は住民に対する情報提供のほうが必要なファクターになっているため、小分野を「情報提供・情報利活用」とし、その中を「情報提供」と行政内部の「情報利活用」に分けることを提案した。防災や消防の分野では、住民自治にどれだけのことを

期待してお願いすべきかがきちんとイメージされないまま、防災や消防を議論するのはおかしいという意見が出た。消防で住民側から意見を多くもらったが、自治会や町内会ばかりに負担がかかっている現状をどうすべきかという危機感を、もっと行政で共有すべきではないか。防災だけでなく、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、母子福祉も含めた地域福祉の観点から、地域がもっと福祉能力を開発してもたなければならぬという意見が出た。

(2) 基本構想（案）について

【中川 会長】 「基本構想（案）」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 （資料1-1について説明）

【森岡 委員】 20年の長期に渡って何を進めようとしているかがイメージしにくい。全体的に重複箇所が多く、人口減少の問題が何か所も出てくる。人口減少などの後ろ向きのお話をすると後ろ向きの計画になるため、人口減少や厳しい財政のなかでも夢をもち、どのように未来ある生駒を作るかという大きなビジョンが必要だが、それが明らかになっていない。都市構造で取り上げる問題は、大規模開発がされたところだけとするのか、もともと生駒市では門前町という形で旧市街が発展してきた歴史がある。これからの20年、さらに長期的に生駒市街全域をどのようにもっていくかというイメージが必要だが、それが述べられていない。学研都市のことしか書かれておらず、旧市街をどうするかが述べられていない。6ページの「今後20年間の将来を展望すると、人口減少・少子高齢化の進行に加えて、経済のグローバル化の進展や地球環境問題への対応、ICTの進展等」についてだが、ドローンなど簡単なおもちゃのようなものが操縦できるのは、物そのものがコンピュータ化されて判断しているからである。それぞれの物にコンピュータを乗せてネットワーク化するのはIoTで、ICTはコミュニケーションの問題である。

【中川 会長】 大きく3つの指摘があった。1点目の「人口減少が見込まれるということが何度も出てくるため、ポジティブなイメージが出にくい」というのは、指摘の通りである。2点目の「ICTではなくIoT」という点

は、もっと記述を増やせばよいと思う。3点目の「コンパクトで、良質な住まいや暮らしの空間を創出する都市構造」だけでは、都市イメージとしては貧弱という指摘についても、もう少し書き加えたほうがよい。機能性だけでなく、文化や人の気持ちの部分についての記述を加えたほうが基本構想としてはよいということである。

【久会長代理】 森岡委員の2番目の意見である、それぞれの市街地像に応じた話は基本計画の土地利用のところでも記載されている。基本計画を充実させるのか、基本構想レベルに上げていくのか両論があるため、事務局でどのような役割分担にすれば構想と計画がつながるか整理してほしい。

【事務局】 指摘のように基本計画の17ページに「2 都市構造の基本的な考え方」があるため、基本構想と基本計画の住み分けを整理する。

【中川会長】 基本計画の要約版のような形で、すばっとコンパクトなものが基本構想に書かれるべきである。17ページの記載を圧縮すれば、加工できる。

【森岡委員】 生駒の「将来都市像」がここだけになっている。リニア中央新幹線は書き過ぎで、高山茶釜だけを記載するのも寂しい。書き過ぎの部分は検討が必要である。8ページの「第2章 まちづくりの推進」の、「(2) 多様な主体との協創によるまちづくり」で、「民間主体と行政など本来価値観の異なる主体が有機的に連携する『公助』によって」とあるが、これだけを書くと、「それが公助か」、「公助は他にないのか」ととらえられてしまう。それに続く「多様な主体が緩やかにネットワークを形成し、互いが共有できる新たな価値を創造する『協創』のまちづくりを進めます」は、漠然とした意味は分かるが、具体的な目標が見えない。公助の問題や「事業者等の民間主体が相互に連携する『共助』」という表現が唐突に出てきて分かりにくい。9ページに、それらを「分野横断的に連携を図り」とあるが、その中身を前のページで見ると、「事業者等の民間主体」しかなく、それだけが分野横断なのかと思う。取り上げ方が偏っている。言葉だけが唐突に入ってきて分野の説明がないため、読んでいて分かりにくい。9ページの「3 戦略的なまちづくりの視点」の、「生駒で住み・働く暮らし方など、多様な生き方や多様な暮らし方(生活スタイル)が広がり」は6ページにもあり、重複している。「2」

の（１）で「分野横断的」と書きながら、「３ 戦略的なまちづくりの視点」でも「漸進的な方向性の転換と分野横断的な施策の推進が必要となります」とある。言葉だけが唐突に出てくるため、どうとでもとれる。抽象的で具体性がなくイメージがない。言葉の意味は分かるが、前提の説明がないため、今後２０年の生駒市の分野横断的な施策のイメージが湧かない。

【中川会長】 大変貴重な指摘をいただいた。「生駒で住み・働く暮らし方など、多様な生き方や多様な暮らし方（生活スタイル）が広がり」などの記述の重複は煩瑣な印象になるため避けたほうがよい。「分野横断的」は、例示がなければ分かりにくいという点だが、これは行政で横断的に連携するという意図で「関連する主な取組」の精神を表していると思うが、事例を入れればよい。「自助・共助・公助」をここに入れるべきかは検討が必要だが、「協働」という概念で説明したほうがよいと思う。

【事務局】 第５次総合計画は「市民主体のまちづくり」、「自助・共助・公助」、「持続可能な都市経営」が基本理念の３本柱だったため、「自助・共助・公助」という概念は表したい。さらに「多様な主体との協創」も合わせて表現したいと思ったが、意見を聞いて公助の説明のようにとらえられていることが分かった。公助の説明は前段で記載した後、共助・公助について協創を意識したまちづくりを進めたいという思いで、今回記載した。「共助・公助」と記載することで混乱を招くようであれば、改めて３本柱に整理し直すなど、構成を検討する。「自助・共助・公助」と「協創」が並列になると、重複感があるという指摘を受け、今回１つの記載にまとめた。しかしまとめるには「自助・共助・公助」と「協創」の関係性を書かなければならないと思い、このような記載にしたが再度検討する。

【中川会長】 「民間主体と行政など本来価値観の異なる主体が有機的に連携する『公助』」は、「公助」ではなく協働であり、協働は共助である。公助は行政の直接的な支援、制度的支援である。民間同士の共助もあるが、行政と民間の共助もある。共助は協働の３領域という言い方をする。民間責任主体で行政が助成金などで手助けしたり支援、後援するもの、行政責

任主体で民間の力を借りる民間委託や工事請負である。本来市民団体にやってほしいが、どこもないときに会社や企業にしてもらうことも協働である。協働のパートナーを既成の団体だけでなく、市民団体に広げていくのが本来の協働の運動である。協働には行政責任領域の協働、民間責任領域の協働、折半の協働があり、協働は共助である。ただし、自助・共助・公助は自治の原則である。書き直しを検討されたい。

【久会長代理】 自助・共助・公助は段階の整理、協創は複数の主体が新しいものを生み出すという概念である。違うものを合体させているため、切り分けたほうがよい。

【事務局】 切り分けるよう整理する。

【中川会長】 意見を元に、基本構想を再度練り直していただくよう、願います。

【森岡委員】 9ページの「3戦略的なまちづくりの視点」の「漸進的な方向性の転換と分野横断的な施策の推進が必要となります」は、どのような方向に漸進的に転換をするかが見えない。表現の問題ではない。これを読み込んでいると疑問がたくさん浮かんで頭が混乱する。新しい言葉に変えていこうとしているが、「まちづくりの主体は市民である」という観点がすべて抜けている。「まちづくりの主体は市民である」という中で、「漸進的な方向性の転換と分野横断的な施策の推進が必要となります」ということなら分かるが、最初に謳った「まちづくりの主体は市民である」という大きなテーマが感じられない。それがあれば、その方向で漸進的に新しく切り開いていくこと、分野横断的にその方向でいくことがつながるが、言葉が唐突に出てくるためつながらず、どうするのかという疑問が出てくる。今後この議論に加わっていない人たちが施策を進行するが、これを見て、違う方向で「漸進的な方向性の転換と分野横断的な施策をする」可能性がある。私も様々なものを作ってきたが、概して担当者はでき上がったもので引き継がれるため、作ったときの意味が分からず、うまく継承できないのではないかと。

【中川会長】 ここは、前文として「『生活構造』『社会構造』『都市構造』の3つの視点から戦略的に施策展開を図る」という考え方を要約している。

「(1)生活構造の視点」の最後の、「対象者や条件等の想定を見直し、

働き方改革に伴う就業環境の変化や生活時間の変化など個人の行動変容に即した施策へ転換を図ります」、「(2) 社会構造の視点」の最後の「こういった個人の行動変容に伴う社会構造の変化に対応する視点から施策の転換を図ります」が、「漸進的な方向性の転換」を集約したものと理解しているが。それでよいか。

【事務局】 はい。

【中川会長】 最初にいきなり「漸進的な方向性の転換」とあり、後段の説明がつながっていないため、それだけが飛び出しているように見える。例えば、「生活構造、社会構造、都市構造の視点を受けた漸進的な方向性の転換が必要となる」とつないだほうがよい。「分野横断的な施策の推進」の説明は、生活構造、社会構造、都市構造の視点から読み取ろうと思えば読み取れるが、読み取りにくい。これも「生活構造、社会構造、都市構造の視点から分野横断的な施策推進が必要となる」という必然性の言葉をどこかに足してつないだほうがよい。反対に、「3 戦略的なまちづくりの視点」で(1) (2) (3)が入り、最後に「以上のように」とまとめる方法もある。

【久会長代理】 森岡委員の意見は2つの重要な課題を指摘している。第2部会でも、多様な働き方や多様な暮らしの「多様な」とは、例えばどのようなことを質問したが、的確な答えが返ってこなかった。言葉だけで終わっていることが1つ目の課題である。2つ目の課題は、イメージを皆が共有できているかである。森岡委員はイメージが湧いてこないと言っているため、誰が読んでも内容を共有できる書きぶりが必要である。社会構造の部分は今後の基本計画の展開で大変重要なところである。先ほど森岡委員からIoTの話があったが、道具はどんどん進化しているが、道具を使う側の社会のデザインが従来型のままである。働き方改革は残業を減らすことではなく、根本的に働き方を変えることである。サラリーマンがもっともメジャーではない世の中になるかもしれない。どのような働き方があるかを考え、それぞれの働き方が実現できる社会の仕組みを作ることが重要だが、それがまったく追いついていない。社会デザインを作る1つの重要な役割を担うのが行政である。行政が新しい社会の制

度を作らなければ「漸進的な」にはならず、今までのものを効率的にするだけで終わり、変革につながらない。このことは基本計画につながるときに考えてほしい。経済分野で「ギグエコノミー」が言われている。「ギグ」は、ジャズなどの即興ライブをするグループづくりのことで、インターネットを通じて、様々な人がその場限りで仕事を作り上げることが「ギグ」であり、それによって仕事が始まっている。それにはつなぎ役のプラットフォームが重要で、市役所がまさにプラットフォームづくりをしなければならない。インターネットを通して情報交換する仕組みさえ作れば、後は個人のやり取りで様々なものが回る社会になっている。そのプラットフォームを行政が作らなければならないが、それが見えているか。これは第一部会の報告にあった「情報化とは何か」にもつながる。基本構想の社会構造の視点で、そこをきちんと考えてほしい。

【中川 会長】 「環境がこれだけ変わるから、それに伴って多分変わるだろう」で止まっていないかということである。「環境がこれだけ変わる結果、人々はこのような生き方をする、このような地域になる」ということをイメージして書いたほうがよいという踏み込んだ話である。

【久会長代理】 連続テレビ小説でもシェアオフィスで自分で仕事を作り出すという新しい働き方をしている。このようなことが朝ドラで取り上げられる社会になっている。そのような方々と一緒に仕事をしてきたのでようやくここまで来たと思うが、意識をして見ていないとあの働き方が訴えていることは理解できない。それと同じで、皆が感覚を鋭く感じられる社会の仕組みを作ってほしい。

【中川 会長】 「誰もが放送局になれる、誰もが出版社になれる、そのような感度の高さが重要な社会がくる」というイメージで記載してはどうか。

【事務局】 基本構想では、施策展開をどこまで具体的に記載するかを考えたいうえで、「視点」という書き方にした。多様な働き方と生き方については、10ページの前段でイメージしてもらえようとした。

【中川 会長】 記載の重複を省き、社会のドラスティックな変化に踏み込み、「3 戦略的なまちづくりの視点」の前文を、「抜本的な方向性の転換を求める可能性がある」などにすれば、もっと明確になるのではないか。

【事務局】 大きな課題に対して徐々に段階的に舵を切っていくという意味で「漸進的な方向性の転換」としたが、ドラスティックに書くということか。

【中川会長】 恐らく、大幅な変化が来ると思う。

【事務局】 ここでは、20年後を見据えて変えなければならないものの中で、直近の5年間でやるべきことを少しずつ進めていくことを書きたいと思い、20年後を見据えて漸進的にやっていくために、3つの視点で取り組んでいくというまとめ方にしたが、意見を踏まえ再度整理する。

【中川会長】 (1) (2) (3) の中身に連動する形で前文を置くという形はよいので、うまくつなぐようにすればよい。後はトーンの問題である。

【久会長代理】 私の指摘は、詳細に記載してほしいということではなく、具体的なイメージをもって記載してほしいということである。具体的なイメージがあれば1つ1つの文章の意味が理解でき説明もできる。それがないまま、言葉だけで踊らないでほしい。

【中川会長】 第一部会でも、「効果的、効率的」という言葉が何度も出てくるので、何が効果的で何が効率的なのか定義を聞いたが、明確な答えが返ってこなかった。冠言葉のように使う癖があると思う。それと同じで、言葉の中身のイメージをもって使うようにという指摘である。

【森岡委員】 今はその道の経験がないところが靴や接着剤を作ったり、ビルの1室に骨の再生工場を作る世の中である。インターネット社会によってノウハウや経験がなくても、手軽に物を集めたり構成できる時代になっている。どの市町村でも「うちに来てください」と言っているが、社会の発展方向の分析が進んだからといって、人が来てくれるわけではない。社会構造の変化に手が打てるかどうかが重要である。「社会構造の視点」では、小さい規模でも大きなことをしてくれる様々な人に、生駒市に来てもらうための施策展開が必要だが、それが感じられない。

【中川会長】 意見を踏まえて事務局で整理し、加筆修正してほしい。続いて、将来都市像のキャッチコピーについて事務局から説明をお願いします。

【事務局】 (資料1-3について説明)

【中川会長】 挙手によりB案が最多。これ以外の案の要望はないため、暫定的にB案を有力候補とする。

(3) 基本計画（案）について

【中川会長】 「基本計画（案）」について事務局から説明をお願いします。

【事務局】 （資料2-1について説明）

【森岡委員】 6ページの「人口減少・少子高齢化によって直面する環境・経済・社会の課題に対して、環境政策で環境問題を解決すると同時に、経済・社会の課題をも解決していくための方向性が必要となります」は、地球環境問題というテーマから飛び抜けている。「1 人口減少問題と少子高齢化の進展」で人口減少問題に触れ、さらに「3 地球環境問題の深刻化」でも記載があることが気になった。生駒断層帯は生駒山地の向こう側と聞いており、8ページの「3 大規模災害への備え、防犯・安全対策」の「生駒山地には活断層の存在が確認されている」は、市民に不安を与えることにつながる。その下の「急速に高齢化が進行することにより、地域の防災力の低下が懸念される」は、高齢化が進行するとなぜ防災力が低下するのか分からない。この表現では高齢者に防災を任せきっていることになる。10ページの「(2) 都市活力の基盤となる土地利用」についてだが、生駒市は門前町として発達してきており、歴史的に見れば旗本が分割で所領をもっていた。お寺や宝山寺などから発達してきた。「都市活力の基盤となる土地利用」で学研生駒テクノエリア、学研北生駒駅周辺地区だけを上げると「これだけか」と思われてよくない。17ページの「(1) 都市の拠点」については、地域公共交通活性化協議会でも18ページの「都市構造イメージ図」について議論を続けてきた。国の施策が変わって若干方針が変わり、都市拠点と2つの地域拠点という形になっている。「(2) ネットワークの形成」の「都市拠点を中心とする市内の総合的な交通ネットワーク形成の充実を図ります」についてだが、18ページの「都市構造イメージ図」の青い線が示すように、生駒市民は学園前駅や富雄駅で買物をして家に帰る人が多い。そのため、地域公共交通活性化協議会では、東西方向のつながりが弱いというのがこれまでの論議だった。「(2)」の「都市拠点を中心とする市内の総合的な交通ネットワーク形成の充実を図ります」と、「(1)」の「1つの都

市拠点と2つの地域拠点を設定します」がつながるようでつながらない。今までの論議をどうするのかと思う。25ページと26ページは従来のものを切り捨てる表現になっている。25ページの「こうしたことから、これまでの市域外での就業や消費などこれまで行政サービスを提供するに当たって前提としてきた対象者や条件等の想定を見直し、働き方改革に伴う就業環境の変化や生活時間の変化など個人の行動変容に即した施策へ転換を図ります」は、今までのものを切り捨てるようで、なぜこのような転換を図らなければならないのかと思う。高齢者の感覚で、これまでのものを切り捨てて転換を図るという印象を受けることが気になった。

【事務局】 基本構想と基本計画の記載の重複は差し替え部分である。戦略的施策と戦略的なまちづくりの視点を入れ替え、基本計画（案）の「3 戦略的施策」は違う表現にしており、25ページで記載を改めている。

【中川会長】 森岡委員の本日の意見も留意してほしい。

【楠下委員】 まちをすべて新しく変えるのではなく、昔の良いところや、生駒のまちや自然の良いところ、文化的なものを残していくことも大切である。生駒市には往馬大社や宝山寺などの万葉集にも関連のある歴史的なものがある。この計画は20年計画だが、最初の3～5年間で基本的な施策を企画、設計して中長期計画に振り分け、その後順次計画的に実行するのがよい。会社の計画決裁と実施決裁で言えば、総合計画は計画決裁で大枠を作るもの、実施決裁は各担当課が調査しながら具体的なテーマを計画的に進めるもので、その両面が必要である。2～3年かけて過去の良いものと新しい魅力の両方を洗い出して計画的に盛り込むという時間が必要である。今後各部門で計画的に実施してほしい。

【村上委員】 時代の流れは大変速いため、先を見る目を養い、細かく対応していく生き残り策を先手先手で考えることが大事である。

【中川会長】 森岡委員と久会長代理の意見は、「高齢化、人口減少、都市のインフラの弱まりへの対策は当然必要で、20年計画の構想はそれだけで終わらない、よりよい未来への踏み込みが必要だがそのビジョンがない」ということを強く指摘している。人が減る、高齢化する、社会が弱るばかり

では元気がなくなる。「生駒市はこのようなところに迎え撃ち、そのための積極的な施策も考えて作っていく。具体的には今後検討する」などは書いてもよい。皆様は元気が出る話をしてほしいと言っている。

【藤尾委員】 古い歴史文化があってこそその生駒だと思う。知っている単語や難しい単語を無理に入れ込んだようで、読んでいて心を打たない。文章量が多く同じ言葉が何回も出てくる。「戦略的」と書かれていても内容が分からない。市民が読んで感じ取れるものにしてほしい。25ページの「ひとり暮らしから三世代同居、グループによる同居・近居三世代同居」は、今も三世代同居すらない中で5年先に三世代同居はあまりイメージできない。社会を取り巻く環境が三世代同居に向かっているのか、向かわなければならぬのか、市民は現実のものとして実行してくれるかが、夢を追い過ぎていてギャップを感じる。細かい部分と説明不足の部分が入り混じっている。夢に置いておく部分は緩く飛ばすほうがよい。言い過ぎると逆に分かりにくくなる。

【谷中委員】 将来都市像という目標実現のためにはこれだけの情報量が必要だが、読めば読むほどぼやけて分からなくなる。「これとこれとこれをこのようにやる」などの市民向けの分かりやすいものが別途あればよいと思う。

【事務局】 3～4ページくらいの概要版を作るので、そこで表現したい。

【森岡委員】 今までの概要版はすべての抜き書きで、本当の意味で概要版にはなっていない。

【中川会長】 概要版を作るつもりでも、どうしても外せないものが出てきて、そのような中で最小限で作ると結局分からないものになることはある。市民が見て分かりやすいものが必要である。大事な指摘をいただいた。

【久会長代理】 基本的にはよいが、先ほどの委員の意見を受けて補足も含めて2点述べる。6ページの「社会環境の変化」での人口減少問題と少子高齢化の記載についてだが、SDGsは環境だけでなく、経済と社会の持続性のことも言っており、人権、貧困、雇用など多くのことを実現することで、社会全体を持続可能にしようというものである。ここではその観点が記載されているが、きちんと伝わるよう「環境問題は環境施策だけで実現するのではなく、経済や社会も含めて全体が持続可能になることが求め

られているため、環境施策もそのような方向で進める」というニュアンスにしたほうがよい。18ページの「都市構造イメージ図」を見ても分かるが、私は都市づくりの専門家として、いつも議論になる北部と南部の問題から生駒市のネットワーク化は大変困難と思っている。生駒市は南部の生駒町と北部の北倭村が昭和の大合併で1つになったが、真ん中に緑で示されている丘陵により、地形的にずれた形でくっついている。森岡委員が言われたように、東西に抜けて奈良市や大和郡山市などに出てしまう構造である。また、竜田川沿いの地域と富雄川沿いの地域は昔から流域文化圏が異なり、民家は南は大和棟が多いが北に行くほど交野市の大阪府側の民家の形になるなど、元々伝統文化が異なる2つの地域が合体している。そのような中でのネットワーク化は、交通ネットワークの委員会も含めた知恵が必要であり、かなり難しいことを共通理解としておきたい。

【中川 会長】 2つの旧市街地の保全再開発について記載する必要があるということだが、10ページの「(2) 都市活力の基盤となる土地利用土地利用」は「空き家等の適正対応や有効活用」というピンポイントの話ではなく、旧市街地のことを入れてはどうかというのが森岡委員の指摘である。

【楠下 委員】 17ページの「(3) 土地利用の方針」の「古民家等の既存ストックを観光振興や移住・定住促進に活用するなどゆとりとうるおいを醸し出す貴重な空間として更なる魅力創出を図ります」の部分に入れてもよい。

【中川 会長】 その2箇所はその視点を入れてほしい。追加意見の締め切りはいつか。

【事務局】 10月26日の第6回全体会に向けて、10月半ば過ぎに修正した資料を配布したいため、追加の意見は今月中にお願いする。

【森岡 委員】 会議の進め方についてお願いがある。資料を読んでいると「なぜこうなるのか」という細かい部分がたくさん出てくるため、説明なしに読むのが辛い。部会で話を聞くと分かり再度読み直すことができた。最初からすべて議論するのではなく、一度小さく議論を行なってはどうか。その中で気づいたことや説明を踏まえて読み直したほうが分かりやすく、様々な意見が出やすい。事前配布資料を読んできて事務局から説明を受け、再度読み直してから議論するという、2回に分けた議論の形を部会

も含めて検討してほしい。

【中川会長】 今の趣旨に沿った進め方は、デッドラインから逆算するとどうなるか。

【事務局】 3月議会での承認に向け、12月議会で報告する総合計画（案）をホームページなどで公表して年末から1か月間パブリックコメントを行なう。そのため、11月27日の全体会でパブリックコメント（案）の決定、10月26日の全体会で各論の大枠の決定が必要である。

【中川会長】 森岡委員のようにきちんと読み込んでいただけることはありがたい。読み込んだ後に多くの意見が出るため、意見がある委員には全体会前に事務局からブリーフィングを行い、修正可能なものは反映してはどうか。

【事務局】 皆様の都合を合わせるのは難しいため会議は予定通りとし、来所された際に時間をとって意見を伺いたい。

【中川会長】 10月26日の成案はできるだけ早く配布してほしい。必要な場合は、そのため9月末までに意見を提出してもらうことでよいか。

【事務局】 本日配布資料に関してはそのスケジュールでよいが、30の小分野は1週間前を目標に作業しており、それ以前に準備するのは難しい。本日の全体会は前回から約2か月空いていたため、かなり案が変わり読み込むのが大変だったと思うが、小分野は一旦各部会で見ている内容なので、読み込むのはそれほど大変ではないと考えている。

【中川会長】 総論については再度やり取りを行なう時間はなく、各論に入らなければならぬということなので、妥協案として、気になる点がある場合は個別に協議を行なうことでよいか。

【各委員】 （異議なし）

【中川会長】 事務局から基本計画（案）各論フォーマットの説明をお願いします。

【事務局】 （資料2-3について説明）

【中川会長】 次々回の全体会ではどのような作業を行うか。

【事務局】 パブリックコメント（案）を決定する。

【中川会長】 次回はかなりのボリュームの原案をほぼ承認する会議になるのか。

【事務局】 30分野で30枚ある。各部会で10枚である。各担当課から今月末に変更部分が出てくるため、それを早めに委員に配布する。

【中川会長】 それに対する意見を全体会で聞いていては時間が足りないため、部会

方式で、事前に意見を出してもらってはどうか。

【事務局】 了解した。

【中川会長】 本日の会議の案件は終了した。ほかに事務局から何かあるか。

【事務局】 (事務連絡)

【中川会長】 これをもって第5回生駒市総合計画審議会を終了します。

—— 了 ——